2027 年度
東京医科大学病院
麻酔科専門研修プログラム



1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

麻酔専門研修の概要

本プログラムは安全で質の高い周術期医療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与するための，麻酔科関連領域の研鑽を積むことを目的とした専門研修プログラムである．将来日本の麻酔科医療を担う人材となり，如何なる事態にも対応のできる自信と麻酔科医療に対する誇りを有する麻酔科医となるべく，専門研修を通じて麻酔科学の基本である麻酔管理学，集中治療医学，ペインクリニック学の基礎を学び，将来，世界に通用する麻酔科医となり医療貢献するための研修である．

本研修を通じて，麻酔科医にとって不可欠な知識・技術を身につけるだけでなく，医師・看護師・学生への教育指導能力の獲得とチーム医療に携わる者に必要な豊かな人間性やリーダーシップの涵養に努め，プロフェッショナルな麻酔科医になるための研修プログラムを用意している．本研修プログラム終了後に麻酔科専門医を取得し，その後，麻酔科学会指導医，ペインクリニック学会専門医、集中治療医学会専門医、博士号取得を目指す。

麻酔専門研修の目的

1）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能を修得すること．

2）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力を備えること．

3）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣を学ぶ．人への思いやりと医療に対する愛情を有すること．

4）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心を持つ．医学に対して真摯に向き合いリサーチマインドを有すること．

5）チーム医療を担うための人格とリーダーシップを有すること．

以上の資質を修得した医師となることを目的とする．

プログラムの特徴

本プログラムにおける麻酔科専門研修では，あらゆる症例に対応できる手術麻酔の研修を受けることが出来る．特殊症例（小児麻酔，心臓血管麻酔，胸部外科麻酔，産科麻酔，脳神経外科麻酔）は，基幹病院である東京医科大学病院のみならず，多様で特色のある専門研修連携施設で更に学ぶ事が出来る．

麻酔関連領域である集中治療研修は，過大侵襲を受けた術後患者や敗血症，ARDSなど重症患者の病態を把握し，エビデンスに基づいた呼吸・循環管理，感染症管理，代謝栄養管理などの全身管理，集中治療の基礎と最先端を学ぶ事が出来る．ICUスタッフと主治医，感染制御部医師，看護師，薬剤師，臨床工学技士、理学療法士、管理栄養士などと合同でカンファランスを開き，治療方針の決定を行う．多職種で呼吸管理や感染症，代謝異常の患者の全身状態を把握する．多職種連携の総合医療である集中治療領域で**リーダーシップを学ぶ**．

麻酔関連領域であるペインクリニック研修では，とくに診断学を重視する．診察・検査・診断・治療のロードマップをしっかり引けるような研修を行う．超音波ガイド下神経ブロックやレントゲン透視下神経ブロックなどの手技や薬物療法，理学療法，東洋医学，臨床心理学など幅広い診療を学ぶ事が出来る．また，整形外科，リハビリテーション科，神経内科，看護師，臨床心理士と合同カンファランスを行うことで，**多職種連携の医療とチームワークを学ぶ**事が出来る．

到達目標

本研修プログラムでは, 専攻医が**整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標**を達成できる専攻医教育を提供し, 十分な知識･技術･態度を備えた麻酔科専門医を育成する.

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている.

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間、後半2年間のうち6ヶ月は，基本的に専門研修基幹施設である東京医科大学病院において研修を行う.
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する.
- 本プログラムにおける麻酔研修期間中の年間の麻酔経験件数は約200例以上を経験する.
- 本プログラムにおける麻酔研修期間中に麻酔科標榜医を取得する.
- 本プログラムにおける麻酔研修期間中に麻酔科認定医を取得する.
- 特殊麻酔研修では，研修内容の充実を図るため，基幹病院以外の専門研修連携施設で更なる研修を行う.
- **小児麻酔研修**では，基幹病院あるいは，小児領域に特徴のある研修連携施設である，国立成育医療研究センター，東京都立小児総合医療センターのいずれかにおいて研修を行う.
- **心臓血管麻酔**では，基幹病院あるいは，心臓血管領域に特徴のある研修連携施設である，国立循環器病研究センター，杏林大学医学部付属病院，東京医科大学八王子医療センター，立川綜合病院のいずれかにおいて研修を行う.
- 専門研修基幹施設で研修プログラムをもつ，東京医科大学八王子医療センター，順天堂大学医学部附属順天堂医院，筑波大学医学部附属病院，東京女子医科大学病院，東京警察病院，大阪公立大学医学部附属病院，静岡医療センター，戸田中央総合病院，立川綜合病院，松波総合病院と連携することで，**幅広い麻酔科専門研修**を行うことが出来る.
- **ペインクリニック研修**を基幹施設である東京医科大学病院で3ヶ月以上行う.
- **集中治療医学研修**を基幹施設である東京医科大学病院で3ヶ月以上行う.

- すべての領域を網羅するローテーションAを基本とするが，小児麻酔を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例B），ペインクリニックを学びたい者へのローテーション（ローテーション例C），集中治療医学を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）など，専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する．
- 地域医療の維持のため，最低でも３~6ヶ月以上は**医師少数県で研修を**行う．また，プログラム内では基幹施設のある東京都以外に，埼玉県，茨城県，岐阜県，新潟県，静岡県と**幅広い地域に対して医療貢献するプログラム**としている．

研修実施計画例

コース	A(標準)	B(ペイン)	C(集中治療)
初年度			
前期	本院 OR	本院 OR	本院 OR
後期			
2 年度			
前期	本院 OR	本院 OR	本院 OR
後期	地域連携施設	地域連携施設	地域連携施設
3 年度			
前期	心臓麻酔研修	心臓麻酔研修	小児麻酔研修
後期	小児麻酔研修	小児麻酔研修	心臓麻酔研修
4 年度			
前期	ペイン/集中治療	ペイン	集中治療
後期	本院	OR/集中治療	OR/ペイン

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	外勤	手術室	休み	カンファ	休み
午後	手術室	手術室	外勤	手術室	術前評価	休み	休み
当直				当直			

4. 研修施設の指導体制

専門研修基幹施設

● 東京医科大学病院

研修プログラム統括責任者：中澤　春政
専門研修指導医：
中澤　春政（麻酔，集中治療，心臓麻酔）
大瀬戸　清茂（ペインクリニック，麻酔）
中澤　弘一（麻酔，集中治療）
合谷木　徹（麻酔，ペインクリニック，区域麻酔）
柿沼　孝泰（麻酔，心臓麻酔，産科麻酔）
関根　秀介（麻酔，集中治療）
魚島　直美（麻酔）
小野　亜矢（麻酔，心臓麻酔）
鈴木 直樹（麻酔，小児麻酔，心臓麻酔）
齋木　梨香子（麻酔，心臓麻酔，小児麻酔，区域麻酔）
栗田　健司（麻酔，心臓麻酔，小児麻酔，区域麻酔）
都築　有美（麻酔）
唐仁原　慧（麻酔）

認定病院番号　28
特徴：
好立地の施設で最先端の周術期医療にかかわり，安全で質の高い医療を実践しながら，麻酔科関連領域の研鑽を積むことができます．麻酔管理学，集中治療医学，ペインクリニック学の基礎を学び，麻酔科医にとって不可欠な知識・技術を身につけ，教育指導能力の獲得とチーム医療に必要な人間性やリーダーシップを身につけ，プロフェッショナルな麻酔科医になるための研修を提供します．

専門研修連携施設

① 東京医科大学八王子医療センター

研修実施責任者：富野　美紀子

専門研修指導医：

富野　美紀子（麻酔，心臓麻酔）

前田　亮二（麻酔，ペイン）

大嶽　宏明（麻酔）

奥山　亮介（麻酔）

認定病院番号　203

特徴：

大学附属病院としての高度・先進的な医療と,南多摩医療圏の地域医療の中核としての多様な症例をバランスよく経験できる研修環境を提供している.特に，生体腎移植，生体肝移植,膵腎同時移植など移植医療の麻酔を経験できる.

② 東京医科大学茨城医療センター

研修実施責任者：柳田 国夫

専門研修指導医：

柳田 国夫（麻酔，ICU）

武田 明子（麻酔，ICU）

認定病院番号　172

特徴：

茨城県南部における急性期中核病院で，整形外科麻酔，呼吸器外科麻酔，脳神経外科麻酔を含めた麻酔研修，重症患者に対する集中治療，地域における救急医療の研修を行う.

③ 大阪公立大学医学部附属病院

研修実施責任者：森　隆

専門研修指導医：

森　隆(麻酔)

松浦　正(麻酔)
末廣　浩一(麻酔，心臓血管外科麻酔，集中治療)
矢部　充英(麻酔，ペインクリニック)
舟井　優介(麻酔，小児麻酔，心臓血管外科麻酔)
堀耕　太郎(麻酔，心臓血管外科麻酔)
藤本　陽平(麻酔)
日野　秀樹(麻酔，小児麻酔，心臓血管外科麻酔)
辻川　翔吾(麻酔，ペインクリニック)
重里　尚(麻酔，心臓血管外科麻酔，集中治療)
木村　文（麻酔）

認定病院番号　11
特徴：
機構専門医研修に必要な全症例を当施設で経験可能です．また，大学院博士課程並びにペインクリニックを併設しておりますので，博士号取得並びにペインクリニック認定医取得と機構専門医取得を両立できます．

④　杏林大学医学部付属病院
研修実施責任者：森山　潔
専門研修指導医：
森山　潔（集中治療）
萬　知子（手術麻酔全般，医療安全）
鎮西　美栄子（緩和医療）
徳嶺　譲芳（手術麻酔全般，医療安全）
関　博志（手術麻酔全般，周術期管理）
小谷　真理子（集中治療）
藤井　範子（心臓麻酔）
渡辺　邦太郎（区域麻酔，ペインクリニック）
本保　晃（周術期管理，産科麻酔）
足立　智（心臓麻酔）
安藤　直朗（手術麻酔全般）
澤田　龍治（区域麻酔，ペインクリニック）

専門医：
朽名　佳代子（手術麻酔全般，緩和医療）
江間　章悟（産科麻酔，小児麻酔）
吉川　貴紘（手術麻酔全般）
元山　宏展（手術麻酔全般，集中治療）
秋澤　千尋（手術麻酔全般，ペインクリニック）
小野　元彰（手術麻酔全般，集中治療）
川船　麦（手術麻酔全般）
齊藤　由希子（手術麻酔全般，集中治療）
平井　茉莉（手術麻酔全般，ペインクリニック）

認定病院番号　147
特徴：
東京都多摩地区の基幹病院です．多摩地域唯一の大学病院の本院で，年間約7,000件超の麻酔科管理症例があり，麻酔科専門医に必要な手術症例を偏りなく研修することができます．ロボット手術や大動脈ステント，TAVI，Mitra Clipといった先進医療や高難度手術の症例も経験可能です．術前診察外来，術後疼痛管理チーム，集中治療，無痛分娩，ペインクリニックの症例も豊富です．手術麻酔に限らず，周術期管理を通して，患者の安全に寄与できる麻酔科医の育成を目指しています．

⑤　国立循環器病研究センター
研修実施責任者：前田　琢磨
麻酔科指導医：
金澤　裕子
前田　琢磨
南　公人
下川　亮
月永　晶人
森永　將裕
三浦　真之介

認定病院番号　168
特徴：
センター手術室は 12 室であり，そのうち 4 室はハイブリッド手術室です．ロボット手術専用室や COVID 対応陰圧手術室も設置しています．特に冬は緊急大動脈解離手術が多くなります．劇症型心筋炎や心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も多いです．心臓移植はおよそ月 1 回程度あります．麻酔科医はスタッフ 8 名レジデント 18 名で対応しています．休日を含めた毎日，麻酔科医 2 名が当直，オンコール 1 名ですべての緊急症に対応しています．

⑥ 国立成育医療研究センター
研修実施責任者：糟谷　周吾
専門研修指導医：
糟谷　周吾（麻酔）
大原　玲子（麻酔，周産期）
馬場　千晶（麻酔）
佐藤　正規（麻酔，周産期）
蜷川　純（麻酔，心臓血管）
山下　陽子（麻酔，周産期）
行正　翔（麻酔）
古田　真知子（麻酔）
浦中　誠（麻酔，心臓血管）
橋谷　舞（麻酔，心臓血管）
伊集院　亜梨紗（麻酔，周産期）
兒玉　洋介（麻酔）
久米　澄子（麻酔，周産期）
岩田　裕貴（麻酔）
岩田　愛理（麻酔，周産期）

認定病院番号　87
特徴：
・国内最大の小児・周産期・産科・母性医療の専門施設で，小児（手術・検査等）・周産期の麻酔管理（帝王切開・無痛分娩・EXIT 等）について，指導者の下で経

験・習得できる.
・国内最大の小児集中治療施設で，救急・重症疾患の集中治療管理を経験・習得できる.
・小児の移植（肝臓・腎臓・小腸・心臓）の周術期管理を経験できる.
・先天性心疾患を有する麻酔管理（手術・カテーテル検査）を経験できる.
・小児がんセンター，緩和ケア科があり，小児緩和医療を経験できる.
・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制がある.

⑦ 独立行政法人国立病院機構　静岡医療センター

研修実施責任者：小澤　章子
専門研修指導医：
小澤　章子（麻酔，集中治療）
今津　康弘（麻酔，集中治療）
専門医：
波里　純子（麻酔，集中治療）

認定施設番号　866
特徴：
当院は「循環器」,「がん医療」,「救急」及び「総合医療」を柱として地域の医療ニーズに応えている地域医療支援病院である.「地域循環器病センター」として静岡県東部の「循環器病」に関する中核病院に位置付けられており，心臓血管外科の症例も豊富で，虚血性心疾患,血管疾患，循環器疾患の診療治療を経験できる．救急医療体制も充実しており，心臓血管外科は静岡県東部全域より救急を受け入れている.

⑧ 順天堂大学医学部附属順天堂医院

研修実施責任者：川越　いづみ
専門研修指導医：
川越　いづみ（呼吸器外科麻酔，区域麻酔）
石川　晴士（胸部外科麻酔，術前外来）
赤澤　年正（麻酔全般，心臓血管外科麻酔）
長島　道生（集中治療）

竹内　和世（麻酔全般，小児麻酔）
工藤　治（麻酔全般）
岩田　志保子（麻酔全般，心臓血管外科麻酔）
掛水　真帆（麻酔全般，心臓血管外科麻酔）
尾堂　公彦（麻酔全般，心臓血管外科麻酔）
河邉　千佳（麻酔全般，小児麻酔）
安藤　望（麻酔全般，小児麻酔）
阿部　まり子（麻酔全般，小児麻酔）
福田　征孝（麻酔全般）
豊田　有加里（麻酔全般）
櫻谷　初奈（麻酔全般）
林　愛　（麻酔全般）
藤野　隆史（麻酔全般）
岡田　尚子（麻酔全般，産科麻酔）
門倉　ゆみ子（麻酔全般，産科麻酔）
千葉　聡子（ペインクリニック）
山田　恵子（ペインクリニック）
原　厚子（ペインクリニック）
濱岡　早枝子（ペインクリニック）
武田　泰子（ペインクリニック）
太田　浄（ペインクリニック）
林田　眞和（心臓血管外科麻酔）
西村　欣也（小児麻酔）
井関　雅子（ペインクリニック，緩和ケア）
三高　千恵子（集中治療）
近江　禎子（麻酔全般，産科麻酔）
専門医：
稲田　美香子（麻酔全般）
山口　愛（麻酔全般）
草野　有佳里（麻酔全般）
池田　麻里絵（麻酔全般）
伊東　由圭（麻酔全般）

宇田　川梨子（麻酔全般）
桃井　千恵（麻酔全般）
岩佐　美（麻酔全般）
米本　周平（麻酔全般）
森　悠子（麻酔全般）
多賀　慶子（麻酔全般）
室谷　修平（麻酔全般）
廣瀬　友基（麻酔全般）
箕浦　真奈美（麻酔全般，産科麻酔）

認定病院番号　12
特徴：
各診療科の手術数が多く最先端医療の導入にも積極的であるため，豊富な麻酔症例を経験でき，各サブスペシャリティーの指導陣も充実している．ペインクリニック，緩和ケア，集中治療，産科麻酔の長期・短期のローテーションも可能である．多職種で構成される包括的な術前外来も整備され，麻酔安全面へ大きく寄与している．

⑨　立川綜合病院
研修実施責任者：桑原　淳
専門研修指導医：
桑原　淳（麻酔,心臓血管麻酔,神経ブロック）
佐藤　敬太（麻酔,心臓血管麻酔,集中治療）
小澤　菜月（麻酔，心臓血管麻酔，神経ブロック）
岩出　宗代（麻酔，神経ブロック，ペインクリニック）
笹川　香織（麻酔，心臓血管麻酔，神経ブロック）

認定病院番号　1469
特徴：
新潟県内で中心的な役割を果たす手術施設．特に県内随一の心臓血管手術症例数を誇り，高度な心臓血管麻酔の修練が可能．また，無痛分娩にも積極的に関わっており周産期の麻酔研修も行っている．

⑩　筑波大学附属病院

研修実施責任者：　加藤　純悟

専門研修指導医：

加藤　純悟（麻酔，心臓麻酔）

山下　創一郎（麻酔）

山本　純偉（麻酔）

清水　雄（麻酔）

叶多　知子（麻酔）

中楯　陽介（麻酔，心臓麻酔、小児麻酔）

植田　裕史（麻酔，集中治療）

山田　久美子（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）

廣瀬　優樹（麻酔，脳神経麻酔）

田地　慶太郎（麻酔，心臓麻酔）

山田　麻里子（麻酔，心臓麻酔）

岩井　与幸（麻酔，心臓麻酔）

大和　田麻由子（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）

村田　雄哉（麻酔、心臓麻酔，ペインクリニック，緩和医療）

森川　裕史（麻酔）

専門医：

澤井　真優子（麻酔，小児麻酔，産科麻酔）

久後　舟平（麻酔，産科麻酔）

河村　彰久（麻酔，小児麻酔，産科麻酔）

谷中　亜由美（麻酔）

佐々木　桃子（麻酔）

大西　真悠子（麻酔，産科麻酔）

成田　聖門（麻酔，ペインクリニック）

小平　哲也（麻酔，ペインクリニック）

鈴木　翔也（麻酔）

山下　莉奈（麻酔，産科麻酔）

認定病院番号：148

特徴：
症例のバリエーションと豊富さが特徴で，短期間で十分な麻酔科診療の知識と技能を獲得出来る．最初は脳神経外科手術・腹部手術、胸部外科手術・血管手術・帝王切開術・小児の麻酔を中心に担当し，これらの症例に慣れてきた頃から心臓大血管手術の麻酔を担当する．１年間で専門医取得に必要な経験すべき特殊麻酔症例数をほぼ達成することができる．

⑪　東京警察病院
研修実施責任者：石崎　卓
研修指導医：
石崎　卓（麻酔）
小安永　佳乃（麻酔）
嵐　朝子（麻酔）
高田　純子（麻酔）
野本　万祐子（麻酔）
濵田　隆太（麻酔）

認定病院番号　338
特徴：
東京都中野区における急性期災害拠点病院である．産科麻酔，呼吸器外科麻酔，脳神経外科麻酔を含めた総合的な麻酔研修を行う．

⑫　東京女子医科大学病院
研修実施責任者：長坂　安子
専門研修指導医：
長坂　安子（麻酔）
黒川　智(麻酔)
尾崎　恭子(麻酔)
鈴木　康之(麻酔)
笹川　智貴(麻酔，ペインクリニック)
吉谷　健司（麻酔）
土井　健司(麻酔)

石川　高(麻酔)
古井　郁恵(麻酔)
森脇　翔太（麻酔）
武石　健太(麻酔)
中澤　莉沙(麻酔)
加賀屋　菜々(麻酔)
鈴木　真也(麻酔)
川本　英智（麻酔）
羽二生　顕（麻酔）

認定病院番号:　32
特徴：
豊富な症例数を背景として包括的な麻酔研修・ペインクリニック・緩和ケアの研修も可能です．心臓麻酔研修は特に力を入れており，心臓麻酔専門医の取得も可能です．多種の臓器移植（心臓・腎臓）や合併症（先天性心疾患等）妊娠の管理，エコーガイド下ブロック麻酔研修など様々なスペシャリティに対応します．

⑬　東京都立小児総合医療センター
研修実施責任者：西部　伸一
専門研修指導医：
西部　伸一（小児麻酔）
山本　信一（小児麻酔）
簑島　梨恵（小児麻酔）
伊藤　紘子（小児麻酔）
箱根　雅子（小児麻酔）
佐藤　慎　　（小児麻酔）
千田雄太郎（小児麻酔）
専門医：
福島　達郎（小児麻酔）
和田　涼子（小児麻酔）

認定病院番号　1468
特徴：
地域における小児医療の中心施設であり，治療が困難な高度専門医療，救命救急医療，こころの診療を提供している．年間麻酔管理件数が 4000 件以上と症例数が豊富で，一般的な小児麻酔のトレーニングに加え，新生児麻酔，心臓麻酔，気管形成術の麻酔などの研修が行える．また，積極的に区域麻酔を実施しており，超音波エコーガイド下神経ブロックを指導する体制も整っている．2019 年度より心臓血管麻酔専門医認定施設となっている．

⑭　戸田中央総合病院
研修プログラム統括責任者：板橋　俊雄
専門研修指導医：
板橋　俊雄（麻酔）
宮﨑　裕也（麻酔，集中治療）
眞鍋　亜里沙（麻酔，集中治療）
蔵本　愛理（麻酔）

認定病院番号：587
特徴：
埼玉県南部地域における急性期中核病院である．小児麻酔，心臓外科麻酔，呼吸器外科麻酔，脳神経外科麻酔，移植外科麻酔を含めた総合的な麻酔研修を行うとともに，重症患者に対する集中治療，及び，地域における救急医療の研修を行う．

⑮　西東京中央総合病院
研修実施責任者：益本憲太郎
専門研修指導医：
益本　憲太郎
上北　郁男

認定病院番号　1535
特徴：

整形外科領域の周術期神経ブロック症例が豊富.

⑯ 松波総合病院

研修実施責任者：松波　紀行
専門研修指導医：
松波　紀行（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）
江崎　善保（麻酔，心臓血管麻酔，ペインクリニック）
橋本　慎介（麻酔，心臓血管麻酔）
小島　明子（麻酔，集中治療）
田中　亜季（麻酔，集中治療）
三上　大介（麻酔）
辻　菜々子（麻酔）
加藤　真奈美（麻酔，心臓血管麻酔）
専門医：
中村　知之（麻酔）
松波　恵里佳（麻酔）

認定病院番号　480
特徴：
地域医療支援病院，がん拠点病院，救命救急センター，集中治療，ペインクリニックのローテーション可能，緩和ケアチームに参加可能.

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに志望の研修プログラムに応募する.

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，東京医科大学麻酔科専門研修プログラムwebsite，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である.
東京医科大学病院　麻酔科秘書　岩瀬寛子　プログラム担当　柿沼孝泰
東京都新宿区西新宿６－７－１

TEL 03-3342-6111 (内5811)
E-mail　hshimada@ tokyo-med.ac.jp
　　kakitaka@tokyo-med.ac.jp
Website　https://team.tokyo-med.ac.jp/masui/index.html

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

①　専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

1）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
2）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
3）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
4）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

②　麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理

委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA３度の患者の周術期管理や ASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての，東京医科大学茨城医療センター、筑波大学医学部附属病院（茨城県），松波総合病院（岐阜県），戸田中央

総合病院（埼玉県），立川綜合病院（新潟県）など，幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに，心身の健康維持に配慮する．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には，当該施設の施設長，研修責任者に文書で通達・指導する．